岩手日報
発行所 株式会社 岩手日報社
盛岡市内丸3番7号
郵便番号 020-8622
電話代表019(653)4111
振替口座02360-6-20番
©岩手日報社2011

東北を再生エネ拠点に

復興構想会議 中間整理 「特区制度」も

【東京支社】政府の東日本大震災「復興構想会議」は29日、東京・首相官邸で第7回会合を開き、これまでに出された主な意見を「中間整理」として公表した。東北地方を太陽光など再生可能エネルギーの拠点とする方向で基本的に一致。五百旗頭真議長は会合後の記者会見で、被災地で土地利用などの規制を緩和し、税制や金融の特例で産業を振興する「特区制度」を積極的に活用する方針を表明した。本県は二重ローン解消のための早急な方針提示を求めた。

【中間整理要旨、関連記事2面】

中間整理は「地域づくり」「地域経済社会の再生」など五つの論点ごとに意見を列記。五百旗頭議長は会見で「方向付けはこれからだが、土台となる意味で了承を得た」と述べ、6月末の第1次提言に向けて御厨貴議長代理がたたき台の作成に入ることを説明した。

財源確保のための増税に関しては賛否両論を列記。国債を発行した場合の償還財源を想定し、所得、消費税など幅広い税目での検討を求める意見があったが、本県の達増知事は反対を表明している。

国や県による津波浸水地の買い取り案を示す一方、実現性や効果を疑問視する意見を併記。農業や水産業の集約化をめぐっても賛否両論が示された。

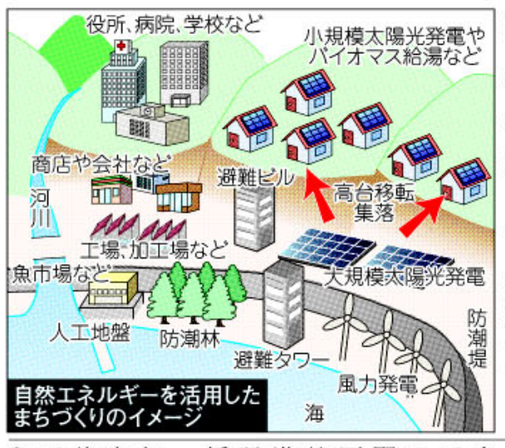
再生可能エネルギーについては太陽光、風力、地熱などを活用した地域づくり（エコタウン化）や産業振興の意見を盛り込んだ。

会合では特区に関連し、市街地、農地など利用形態別に所管官庁が異なっている用途変更手続きを、特例で一本化すべきだとの認識で一致。土地関連法の改正も同時に検討するほか、産業振興に必要な措置の具体化も急ぐ方針を確認した。

本県は秋サケ、ワカメ養殖などの生産適期に合わせた水産業の復興や二重ローンの解消に向けた早急な対応を要望。出席した上野善晴副知事は「二重ローンの解消に国の具体的な方向が見えておらず地域経済に負のスパイラルが起きかねない」と危機感を強調した。

県沿岸にエコタウン

太陽光や風力活用 復興ビジョン 災害時自給目指す



県は東日本大震災後の沿岸部のまちづくりに向け、太陽光やバイオマスの活用で災害時にもエネルギーを自家調達する「三陸エコタウン構想」を復興ビジョンの柱に据える方針だ。住宅などの小規模発電を軸に、水害危険区域への風力発電や大規模太陽光発電所「メガソーラー」の導入も探る。県内では自然エネルギーの活用を復興計画に盛り込む自治体もあり、エネルギー自給で災害に強い新たな三陸像を描く。

県は震災による大規模停電や、孤立集落への燃料支援が十分に行き届かなかった教訓を踏まえ、現在策定中の復興ビジョンでエネルギー自給を提唱。今後3年以降に行う中期的な取り組みに、再生可能エネルギーを活用した非常時にも自立できる都市形成を盛り込む考えだ。

構想では、集落単位で小規模太陽光発電と蓄電池、太陽熱温水装置、木質バイオマス・ボイラーなど各種エネルギーを組み合わせて活用する。平時は夜間電力などに充て、電気やガスが止まる災害時には最大1週間ほど自活可能な設備にする。高台移転集落や公営住宅、中小事業所への導入を検討している。

さらに、水害危険区域などに多数の太陽光パネルを並べる「メガソーラー」や風力、洋上風力、波力などを活用した大規模発電の可能性も模索。今夏をめどに沿岸自治体と勉強会を立ち上げる方針で、港湾や水産施設への供給、売電などを視野に入れる。福島第1原発事故に伴い国も自然エネルギーの利用促進を打ち出しており、県は既に国に対して支援も要請している。

気象庁によると、昨年の年間日照時間は宮古市1792時間、久慈市は1767時間で、県内平均の1603時間を大きく上回る。研究者らでつくる「いわて海洋資源活用研究会」の報告では、久慈市や洋野町の洋上風力は一定以上の風速が見込まれるなど活用が十分期待できるという。

県環境生活部の工藤孝男部長は「災害に強いまちを探る上で、自然エネルギーの活用は有効な選択肢。被災地ならではの防災、エコの可能性を考え、具体化させたい」と話す。

一方、県内自治体でも同様の動きが広がりを見せており、久慈市は復興ビジョンに自然エネルギーの活用方針を盛り込んだ。陸前高田市も復興計画策定方針の柱として、家庭への設備導入や津波流失地域などへの発電設備導入を検討する方針だ。

久慈市の山田一徳政策推進課長は「風力は有力な選択肢になり得る。幅広く可能性を探りたい」と期待する。

絆の力でドンと鼓舞 太鼓フェス奏者 陸前高田に集う

陸前高田市で毎年10月に開かれる全国太鼓フェスティバルの出演者によるミニコンサートは29日、同市竹駒町の陸前高田ドライビングスクール三陸技能講習センターで開かれた。太鼓の絆を縁に集まった宮崎、福島両県の計3団体と地元2団体が荒々しく太鼓を打ち鳴らし、地元住民に感動を与えた。

フェスティバルに出場経験のある橘太鼓響座（宮崎）、愛宕陣太鼓連響風組、うねめ太鼓（福島）が住民を元気づけようと企画。地元からは気仙町けんか七夕太鼓と氷上太鼓が参加し、100人以上の観客を前に体の芯に届く力強い音を響かせた。

OB含め会員6人を亡くしたけんか七夕太鼓保存会は、津波に流された太鼓を修復して使い、苦難を乗り越えた演奏を見せた。

響座は、同フェスティバル実行委に直径約90㌢の大太鼓も寄贈。フェスティバルの開催は現時点で未定だが、響座の岩切邦光座長は「太鼓団体にとって陸前高田は憧れの地。会場の市民体育館は被災してしまったが、太鼓の古里として復活してほしい」と願った。

力強い太鼓の音を響かせる愛宕陣太鼓連響風組のメンバー＝29日、陸前高田市竹駒町

県内死者4500人に 行方不明は2888人

東日本大震災は29日、県災害対策本部の午後5時現在の集計で死者数が前日より3人増え、4500人に達した。行方不明者は5人減り2888人。負傷者は陸前高田市、大船渡市など不明の5市町を除き166人。家屋倒壊数は住家のみの全・半壊で2万3653棟となっている。

県内の被害者数（人）	
死者	4500
行方不明者	2888

29日現在、県災害対策本部まとめ

自公、6月2日で調整 不信任案 民主幹部、造反けん制

自民、公明両党は29日、菅直人首相の退陣に向けた内閣不信任決議案を、党首討論翌日の6月2日に提出する方向で調整を続けた。

一方、主要国（G8）首脳会議（サミット）から帰国した首相は枝野幸男官房長官らと情勢分析。民主党幹部は不信任案に同調する党内の動きをけん制した。

自民党の逢沢一郎国対委員長は29日のNHK番組で、不信任案について「谷垣禎一総裁の腹は固まっている。そう遠くない」と2日提出を示唆。公明党の漆原良夫国対委員長は早期提出を促した。両党は民主党内の状況をぎりぎりまで見極めたい考えで、30日には幹事長が会談し協議する。

谷垣氏は佐賀市で開かれた党会合で「野党の責任を果たすため、勝負を挑まなければならない」と不信任案提出への意欲を重ねて示した。

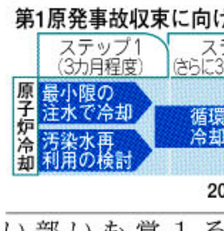
提出の節目となる国会日程は、党首討論のほか、首相が出席する31日の衆院東日本大震災復興特別委員会の集中審議、2日の衆院本会議でのサミット報告がある。

首相は枝野氏らと約40分会談。党分裂回避に向けた小沢一郎、鳩山由紀夫両氏を含めた党代表経験者との会談に関しても意見交換したもよう。

小沢氏支持派議員の中堅グループ「一新会」は30日午後に会合を開き、不信任案への対応について意見交換する予定だ。

年内の収束「不可能」 避難見直しに影響か

福島原発で東電幹部



福島第1原発事故の収束に向けた工程表について、東京電力が「年内の収束は不可能」との見方を強めていることが29日、複数の東電幹部の証言で分かった。1～3号機でメルトダウン（炉心溶融）が起き、原子炉圧力容器の破損が明らかになったことで、東電幹部は「作業に大きな遅れが出るだろう」としている。

【関連記事5面】

東電は4月17日に「6～9カ月で原子炉を冷温停止状態にする」との工程表を公表、1号機の炉心溶融が発覚した後の5月17日にも工程表の見直しはないとしていた。東電幹部の一人は「9カ月という期限はあくまで努力目標だ」としている。

原子炉を安定状態に持ち込んだ後に想定していた政府による原発周辺住民の避難見直しについても影響が出そうで、福島県檜葉町からいわき市に避難している男性会社員（57）は「正月までには家に戻れると思っていたが残念だ。期待を裏切るなら無理に工程表を出してもらわなくてもよかった」と話した。

東電は5月初旬まで、原子炉格納容器に水を満たし燃料が入った内側の圧力容器ごと冷やす「冠水」に向けた作業を続けていたが、12日に1号機の炉心溶融と圧力容器の損傷が明らかになり、冠水を断念。原子炉建屋にたまった大量の汚染水を再利用する「循環注水冷却」という新たな方法で原子炉を冷却する方針に切り替えた。

1号機では格納容器から汚染水が漏れていることも判明しているため、東電の技術系幹部は「まずどこから漏れているか突き止め、ふさがなくてはならない。損傷程度が分からないと、その作業にどれほどの時間がかかるのかすら分からない」としている。

さらにこの幹部は「継続的に大量の水を循環させて冷却するシステムを構築しなければならず、技術的に見て想定より1～2カ月程度余計にかかる」としている。

別の幹部は「1～3号機の収束作業は同時進行できていない。1基ごとに同様の遅れが生じると、9カ月という期限もギリギリだ。作業員には申し訳ないが、正月返上で収束にあたってもらうことになる」と話している。

日本を創る

原発と国家

初動で混乱、神話崩壊

3月12日午前7時すぎ、班目春樹原子力安全委員長と一緒に自衛隊のヘリコプターで福島第1原発に乗り込んだ菅直人首相は、東京電力の武藤栄副社長を怒鳴りつけた。「早く1号機の原子炉格納容器から放射性物質を含む蒸気を逃がす非常手段「ベント」を迫るためだった。

1号機の容器内の圧力は未明に設計圧力の2倍を超え、危機は目前にあった。免震重要棟2階の会議室で武藤副社長、吉田昌郎所長という。

あくまで電源復旧に固執する東電。「悠長なことをやっている場合じゃない。どういう形でもいいから早くやれ」。首相は一蹴し、建屋に向かう乗用車組みが大きくゆがんだ。けがで足を引きずり逃げる人も。「被ばくして、もうじき死ぬんだな」。思いが頭をかすめた。

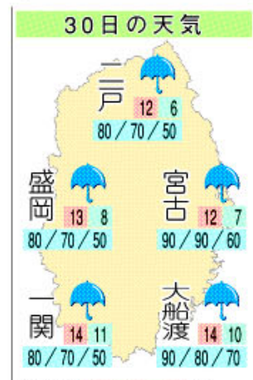
3基の原発でメルトダウン（炉心溶融）が同時に進む世界初の過酷事故に見舞われた福島第1原発。人間の制御を離れ放射性物質を吐き出し続ける〝怪物〟と、なりふり構わぬ闘いが続いた。安全神話は崩れさった。

5面に続く

風土計

「首相のどこが駄目なのですか」と聞かれると、間髪入れず「全部だ」と切り捨てた。発言の主は西岡武夫参院議長。菅直人首相に「即刻辞任を」と求めた▼「同僚議員が行動を起こすきっかけになれば」とやむにやまれぬ思いから発言したとされる。発言の是非はさておき、立法府をつかさどる議長が行政の長たる首相に辞任を迫るあたりに、今の政治の異常さが表れている▼これでは、憲法にうたう三権分立を子どもたちにどう教えたらいいのかと考えさせられる。大震災前から吹き荒れていた「菅降ろし」は震災復旧・復興や福島第1原発事故をめぐる対応のまずさから、収まる気配はない▼菅首相は1月の外交演説で、幕末の志士吉田松陰を引き合いに「松陰は時局に臨んで何もしない為政者を厳しく指弾した志士でありました」と述べ、「今の時代に生きる政治家として成すべきことを成していく」と、自信ありげだった▼松陰には「国家を治むるの要、民心を得るに在り」との言葉もある。川口雅昭編の「吉田松陰一日一言」（致知出版社）によると、「国家を治める際の要点は国民の考えや気持ちを得ることにある」という▼首相は郷土の先人の言葉をどう聞くのだろう。避難所で「なぜ通り過ぎるのか」と詰め寄られるようでは、松陰の教えを理解しているとは言い難い。

30日の天気



降水確率は午前/午後/夜（%）。
天気マークは晴のち曇、曇一時雨。
予想気温は最高、最低（℃）。

週間天気

	盛岡		宮古		大船渡	
31（火）	16 6	20%	11 6	50%	12 6	50%
1（水）	16 6	30%	14 7	30%	15 8	30%
2（木）	20 10	40%	16 10	40%	17 11	40%
3（金）	22 14	50%	21 13	50%	20 14	50%
4（土）	21 14	40%	20 13	40%	21 13	40%
5（日）	24 12	30%	23 12	30%	23 13	30%

天気マークの右は降水確率。

全国の天気

	札幌	八戸	秋田	仙台
きょう	晴	晴	曇	晴
あす	晴	晴	晴	晴
あさって	晴	晴	曇	晴

	東京	名古屋	大阪	那覇
きょう	晴	曇	曇	晴
あす	晴	晴	晴	晴
あさって	晴	曇	晴	晴

きょうの紙面

2 地域重視で仮設建設
3 子ども手当見直し難航
4 核店舗失い肴町苦悩
24 山田の牡蠣くん復活へ
25 高波や浸水に警戒を
26 500㌔流された愛船帰還
19 生活情報
6 解説・評論 7 声 9 文化 10 芸能
11 生活、運勢 12 テレビ欄 13 ラジオ欄
20 21 地域ワイド、慶弔

立ち上がろう岩手

岩手日報ホームページ http://www.iwate-np.co.jp/
読者センター（平日9～17時）
▶ファクス 019（653）8206
▶Eメール dokusya@iwate-np.co.jp
ご購読申し込みは… 0120・240840

この紙面の著作権は岩手日報社が保持しています。無断転載、複製及び配布は禁止します。